

口語詩句 2025 年 1 月 龍 秀美

<総評>最近の口語詩句では、一人の作家が短歌や俳句や川柳などのかたちを混在させる様子が見えます。これは口語詩句のひとつの成熟なのかも知れません。なかでも現代川柳は行分け短歌や俳句に少ない批評性や実験性があって可能性を感じさせます。

冷水の中で水切りする花の  
生かされていることの常態

---

桜望子 山形県

——本当にそうだと納得する。水切りをしているのか、されているのか分からぬが。

ぼにゅぽにゅと  
うさぎの耳  
を揉みながら  
もくれんの花ひらく日を待つ

---

さいう 石川県

——やさしい言葉が素直に並んでいて楽しい。うさぎの耳と木蓮の花びらの白さも。

見たらいい見たい見ましょう  
初日の出

---

中矢 溫 東京都

——気持ちの移り変わりがひとつながりの言葉になっており、弾む気持ちが分かる。「初日の出」だからこの句ができる。

生類に淋しみの令寒の雨

---

田崎森太 東京都

——漢字と仮名と内容のバランスのよろしさ。

泣き顔に見惚れていれば  
右利きのあなたに刺しやすい左胸

---

汐見りら 東京都

——もしこちらも右利きならば、こちらの胸も刺しやすいはず。恋とは真に平等。

泣いていたせいで主題のわからな  
い映画はすばらしく透明で

---

雲理そら 大阪府

——ひとつながりの句の姿が、主題など問題ではないと言っている。

光らない灯台よりも無防備な  
洗髪台で伸びる首筋

---

常田 瑛子 山口県

——白々と伸びる首筋は風にも波にも無防備な突端の灯台のようだ。床屋や美容室は命を預けるところ。光るという唯一の武器も抑えられて。

翅を揃げば大人になれるから

---

金光 舞 埼玉県

——何の翅だろうと色々想像させられる。イカロスであれば、むしろ翅は無い方が良かつたのか。

お風呂場に鮫が出たらば電話して

---

植田 遥希 神奈川県

——「お風呂場」の「お」と「出たらば」の「ば」が呼応してユーモラスな空想を誘う。

妹のせいでいまでも兄の顔

---

塩見 佯 沖縄県

——そうだったのか！と納得。そして自分の役割を受け入れることができる。

からくりのように

失くなるものばかり

点滴の日は雪がしづかだ

---

石村まい 兵庫県

——意図するわけでもなく、努力したからでもなく「からくり」という素朴な言葉でしか表せない人生の不思議。

あたしだって

母さんみたいに不安なく

産んでおうちにいたかった

日本死ね

---

伊東マンション 東京都

——充分な制度もなく子を産み、輝けや活躍などと言われる日本の女性。

去年今年戦火の報道耐えがたく

お笑いにチャンネルを変える屈辱

---

むしまる 大阪府

——脈絡も手加減もなく飛び込んでくる悲惨な事実。目を逸らさなければ、いつしか精神が慣れていく恐ろしさ。

転調は

転生

あとがきは

あわゆき

---

ともよ 北海道

——頭韻とリズムが美しい。

寝たふりでやり過ごす気か

しんからん

---

いちかわ 広島県

——進化論は疑問点も多いという。いま人類は取りあえずそれを受け入れ、しかし将来の自分たちの進化を考えようとはしない。

割れたランタン提げて

ランタン買いにゆく

夜が明けたらさかなのように

---

湯島 はじめ 東京都

——割れたランタンは役に立たないだろうが提げていく。飄飄と、チョウチンアンコウの  
ように。